

課題名：急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発

代表機関／代表者：国立研究開発法人国立がん研究センター／小川朝生

分担機関：国立大学法人東北大学、学校法人聖路加国際大学、一般社団法人臨床疫学研究推進機構

研究期間：令和4年4月～令和7年3月

クラス分類：II

研究開発目的

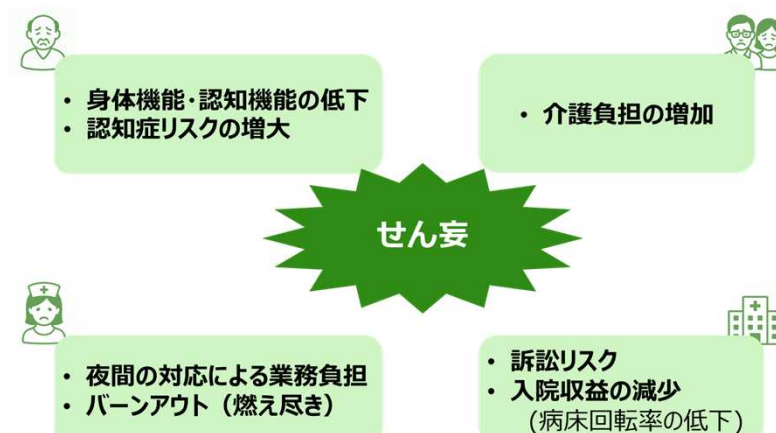
- せん妄は高齢者において頻発する一過性の意識障害であり、身体機能・認知機能の低下、認知症リスクの増大、医療安全上の危険を伴う。
- 一方で、せん妄対策を行う病院は1割程度に留まっており、その結果、病棟看護師の身体的・精神的負担となっており、入院期間の長期化によって年間1兆円規模の追加的医療コストが生じている。
- 独自AIを活用したせん妄の発症予測機能と、せん妄への効果的な予防的介入を促すケアナビゲーション機能をもつ「せん妄対応支援プログラム」を開発し、せん妄に係る医療課題を解決する。

取り組み・成果

- 診療情報を用いて高精度のせん妄リスク評価が可能なAIモデルを開発した。
- 加えて、各種ガイドラインをもとにせん妄予防方法を提示するアプリケーション機能を開発した。
- 薬事承認に向けて、臨床性能試験及び医師主導治験のプロトコルをそれぞれ策定した。
- 試作機の検証を目的に複数医療機関との共同研究を開始した。

今後の展開

- 今後はスタートアップ（株）DELISPECT）にて引き続き事業化を推進する。
- 実臨床への試験的導入、臨床性能試験を経て上市を予定
- 医療機関におけるせん妄発症率を低下させ、働き方改革と病院収益増の双方に貢献することを目指す。

せん妄に係る医療課題**せん妄対応支援プログラムのコンセプト**